

国際看護論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：4 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・千島佳也子

科目担当者（職位・氏名）：非常勤講師・友松郁子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：96

■ 授業概要

近年、国際的概念となりつつあるグローバルヘルスについて教授する。また、看護を実践するうえで、これまでの個別性や地域性に加え、多様な文化の理解、グローバル・リテラシー（国際社会の変化に対応する能力や資質）が求められるため、グローバルな視点で看護を考える力を養えるように教授する。

■ 到達目標

1. グローバルヘルスの概念が理解できる。
2. 異文化・多文化の概念が理解できる。
3. 文化的背景を考慮した看護について考えることができる。
4. 海外の看護教育の現状について理解し、説明することができる。
5. 看護職に求められる国際的な視点について理解し、看護について考えることができる。

■ 教育内容

看護の統合と実践

■ キーワード

グローバルヘルス、異文化・多文化、トラベルメディスン、在日外国人、国連、WHO、ODA、NGO、ヘルス/メディカルツーリズム、アウトバウンド、インバウンド、協働、ICN、健康、障がい、国際比較

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	世界の健康の動向と健康に関わる機関・組織	<p>【講義】グローバルヘルスの概念、SDGs、世界の健康指標、主な国際機関とその活動</p> <p>【グループワーク】様々な指標へのアクセス方法、情報収集の仕方について実践する</p>	友松
2	健康概念と多文化	<p>【講義】健康に対する捉え方の多文化比較、在日外国人の健康問題と看護</p> <p>【グループワーク】健康概念の多様性について考える</p>	友松
3	医療技術の進歩と看護	<p>【講義】医療技術の進歩とグローバルな潮流</p> <p>【グループワーク】医療技術の受容状況について情報収集し国際比較を行う</p>	友松
4	グローバルヘルスと多文化・異文化	グループワーク、成果発表	友松
5	海外の看護教育、看護基礎教育	我が国の看護教育と諸外国の看護教育 ・進学の方法 ・カリキュラムと授業・実習	千島
6	看護職に求められる国際的な視点①	マデリン・M・レイニンガー著文化ケアの多様性と普遍性について 5歳未満児の死亡率上位10か国の保健統計、歴史、文化、社会システムなどについて情報収集しグループワーク	千島
7	看護職に求められる国際的な視点②	SDGsの理解 SDGs目標3「全ての人に健康と福祉を」 2030年のゴールにむけて看護の未来について考える（グループワーク）	千島
8	看護職に求められる国際的な視点	成果発表	千島

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

授業は講義とグループワークで構成し、第4回目の授業時に前半のまとめを行います。成績は授業への出席とグループワーク（50%）、成果発表（50%）で評価します。（友松）

この他、授業時等に別途示す。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

詳細は授業時等に示す。

■ 教科書

なし、授業時に資料を提示する。

■ 参考書・参考資料等

- ・厚生労働統計協会編（2024）『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会
- ・スー・チュラーリ、勝井伸子、渡辺知花著（2008）『知っておきたい国際看護を学ぶための異文化理解とヘルスケア』日本放射線技師会出版会
- ・近藤麻里著（2018）『知って考えて実践する 国際看護 第2版』医学書院
- ・高城玲編著（2017）『大学生のための異文化・国際理解－差異と多様性への誘い』丸善出版
- ・リチャードスコルニク他著（2017）『グローバルヘルス－世界の健康と対処戦略の最新動向』メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・波平恵美子編（2021）『文化人類学 [カレッジ版] 第4版』医学書院
- ・田中共子著（2000）『留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル』ナカニシヤ出版
- ・（公財）日本ユニセフ協会、（独）国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所、災害時こころの情報支援センター『子どもに優しい空間ガイドブック（Child-Friendly-Spaces）』
- ・支援の質とアカウントビリティ向上ネットワーク（JQAN）『スフィアハンドブック 人道憲章と人道支援における最低基準』
- ・（公社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン『人道行動における子どもの保護の最低基準』
- ・田中治彦他編著（2016）『SDGs と開発教育 持続可能な開発目標のための学び』学文社
- ・マデリン M. レイニンガー著（1995）『看護理論 レイニンガー看護論 文化ケアの多様性と普遍性』医学書院

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度必要とする。授業前後の学修内容は授業にて指示する。

■ 担当教員からのメッセージ

この科目では、世界の健康課題や多様化する人々の文化的背景を考慮した看護のありよう、中でも、大きく異なる文化的背景における看護について一緒に考えたいと思います。この科目を通して、人の生活や健康を様々な視点からとらえた上での看護の役割であることを感じてほしいと思います。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

- ・ 医療通訳
- ・ 国際緊急援助隊での海外支援活動

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

看護師としてこれまでの多文化における看護の経験を活かした授業・演習内容を設定しています。